

ねんりんピックに 神戸代表で出場

● 芦田 義和 (生環15期・筑紫が丘在住)

2018年11月3～6日に富山で開かれた第31回ねんりんピック(全国健康福祉祭)に神戸代表としてテニスの部に参加してきました。5月に行われた神



戸市長寿祭の男子ダブルス70歳の部で優勝したため出場できたものです。神戸からは18種目、133人が参加、各都道府県と政令都市から集まった選手たちが熱戦を繰り広げました。スポーツのほか、美術や音楽なども含めた総合的な文化の祭典です。

3日10時から立山連峰を背にした富山県総合運動公園で開会式があり、約1万人の選手団の入場行進と多彩なアトラクションが披露されました。

テニス大会は4日と5日に富山市の岩瀬スポーツ公園で行われましたが、神戸市は4日に富山県、東京都、岩手県とリーグ戦を行い、残念ながら4位に終わりました。5日は4位グループのトーナメントがあり、1回戦は仙台市に2-1で勝ったが、2回戦で福岡市に1-2で負けてしまいました。私の戦績は3勝2敗。岩手県、仙台市、福岡市に勝ったが、富山県と東京都に苦杯を喫しました。国体のように郷土の威信をかけて懸けて戦うのではないので、和やかな雰囲気を楽しめた4日間でした。

写真=富山の小学生から贈られた応援メッセージ

大好評…湊川隧道ハイク 土木の日 41人が参加

第5回北区の歴史ハイクは11月11日、41人が参加して行われ、平清盛が丹生山明要寺に月に一度参拝したと伝えられる「烏原古道」と神戸市の水道事業を支えた「立ヶ畑堰堤」、かつてNHKテレビの「プラタモリ」で取り上げられた「湊川隧道」を巡りました。

「湊川隧道」は明治34年に天井川で度々氾濫した旧湊川を「洗心橋」辺りから川の流れを付け替え、会下山の下にトンネルを掘り、荻藻川に合流することによって、水害から街を守り、天井川の堤防によって分断されていた神戸と兵庫の町の融合が図られました。現在のような重機がない当時、トロッコやモッコ、ノミやツルハシを使った人力による大変な作業

と言われていました。トンネルはレンガ造り、床部も石造りで緩く傾斜しており、中央部分には今でも少量の水が流れているため、足元に注意しながら慎重に歩き



ました。湊川隧道を抜けた後は、長田橋まで飛び石などがある新湊川の川底を探検気分を通り抜けました。「11・11」の土木の日にあたるこの日は、年に1回通り抜けが許された日。参加者からは「湊川隧道の通り抜けは初めて。歩いて川底を渡り、神戸の歴史に触れることが出来た」と大好評でした。

(文責・木田育義 写真・山口俊雄)

▽写真=湊川隧道の入口(左)とトンネル内を歩く参加者(右)